【漁況】
[マアジ]

1．漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は，昭和40年の53万トンをピークに減少傾向となり，昭和55年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ，平成8年には33万トンに増加し，平成10年までは30トン台で推移しました。平成11年には大きく減少し21万1千トンとなりましたが，その後やや増加し，平成16年は25万1千トンでした。

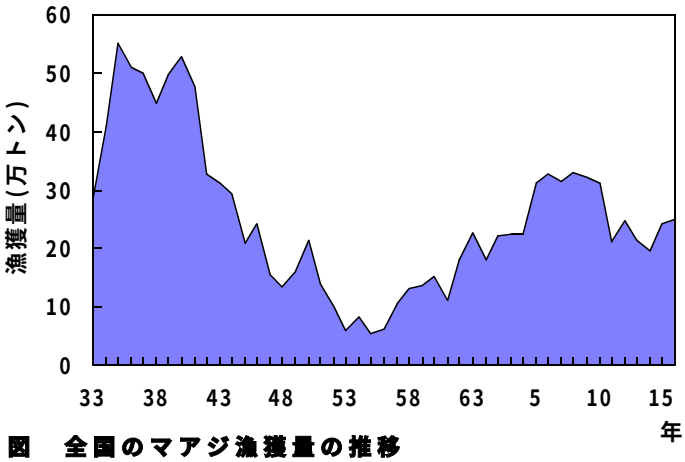


図　全国のマアジ漁獲量の推移

2．平成17年10～12月期の漁況の経過

【４港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦)】

北薩海域では，阿久根沖～野間池沖，甑周辺に漁場が形成されました。

薩南海域では，内之浦沖，開聞沖，佐多岬沖に漁場が形成されました。

４港計のまき網では，アジ仔・豆アジ(0歳魚・平成17年生まれ)及び小・中アジ（１歳魚・平成16年生まれ)主体に284トンの水揚げで，前年の46%及び平年の40%でした。

3．平成18年１～３月期の見とおし

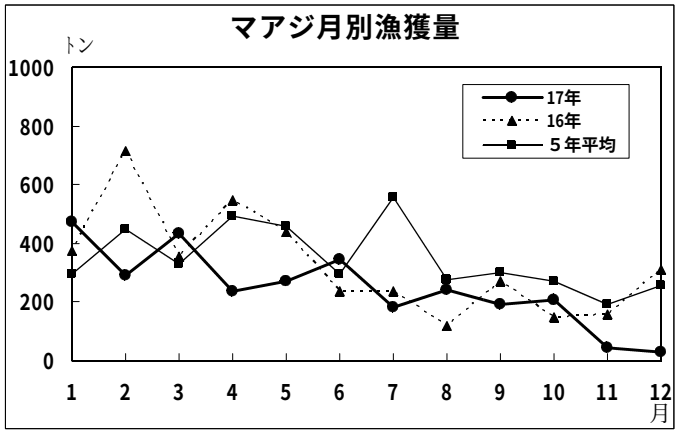
漁獲の主体は，豆・小アジ(１歳魚・平成17年生まれ）となるでしょう。

来遊量は，前年・平年を下回るでしょう。

（根　拠）

近年の漁獲パターンや前期の漁況経過から，豆・小アジ(１歳魚・平成17年生まれ）が漁獲の主体になると考えられます。

１歳魚の来遊量は，前期の漁況経過から低水準であると考えられます。



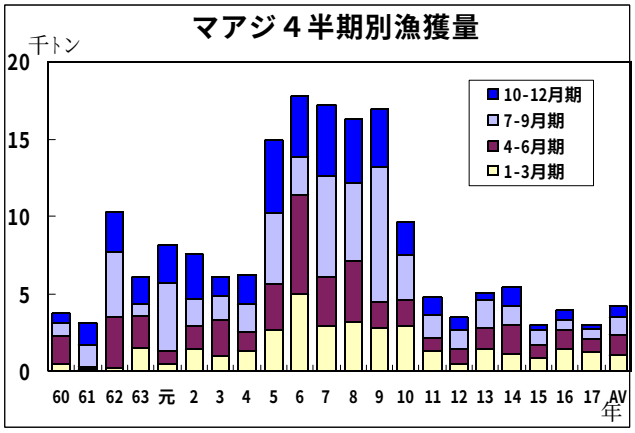


図 マアジまき網漁獲量変化(４港計)

※平年値は過去5年（平成12～16年）の平均値，平成17年12月21日までの水揚量を使用。

[サバ類]

1．漁獲量の動向（農林統計）

サバ類の漁獲量は，昭和53年の160万トンをピークにマサバ資源水準の低下により年々減少し，昭和57年には72万トンとなりました。その後は，ゴマサバの増加により大幅な漁獲量の減少は見られませんでしたが，昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため，サバ類の漁獲量は大きく減少し，平成3年には26万トンとなりました。平成9年には84万9千トンまで増加しましたが，平成14年は27万9千トンに減少した後，やや増加し平成16年は33万5千トンでした。

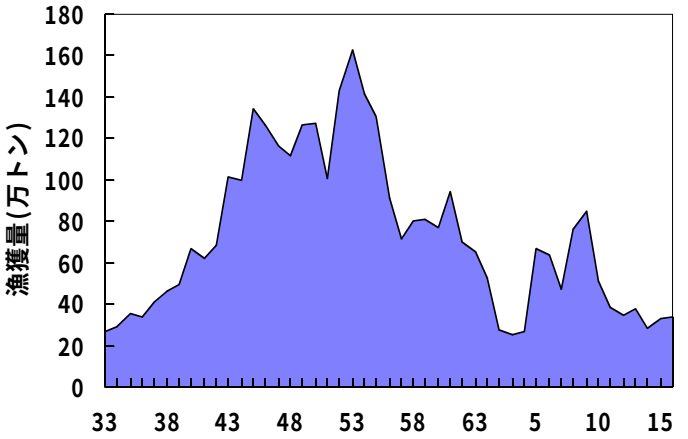


図　全国のサバ類漁獲量の推移

2．平成17年10～12月期の漁況の経過

【４港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦)】

北薩海域では，甑周辺が主漁場となった。

薩南海域では，馬毛島沖・佐多沖・竹島沖・宇治周辺が主漁場となった。

４港計では，ゴマサバ豆・小（０歳魚・１歳魚）主体に8,152トンの水揚げで，前年の354%及び平年の473%でした。

3．平成18年１～３月期の見とおし

漁獲の主体は，ゴマサバ中・大（３歳以上）及びゴマサバ豆・小（１歳魚・２歳魚）となるでしょう。マサバ中は北西薩海域を中心にまとまった来遊が期待できます。

来遊量は前年・平年を上回るでしょう。

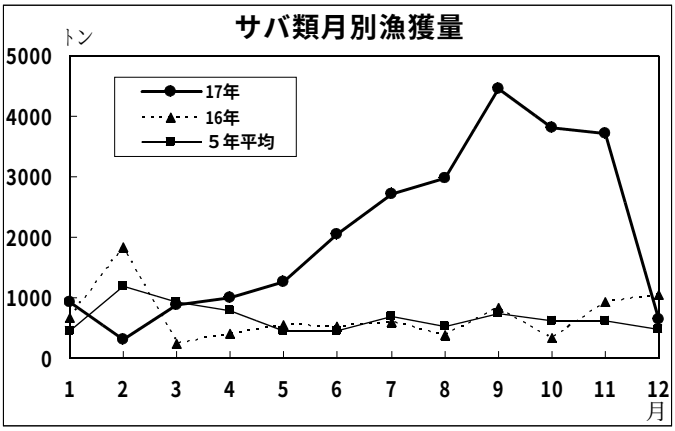
（根　拠）

前期の漁況経過や近年の漁獲パターンから，ゴマサバ中・大（３歳以上）及び前期に好調であったゴマサバ豆・小（１・２歳魚）が漁獲の主体になると考えられます。

前期の漁況経過からゴマサバ１・２歳魚は，来遊量が極めて高い水準にあり，今期は水温の低下に伴い，本県海域から逸散するものの，期前半を中心に好調となるものと考えられる。

近年の漁獲パターンからゴマサバ中・大（３歳以上）は，１月頃にまとまった来遊があると考えられ，現在の資源水準から平年並みの漁況となると考えられます。

マサバ中は，秋以降に済州島～長崎沖で好調に推移しており，今後本県海域へのまとまった来遊が見込まれます。全体的には前年・平年を上回ると考えられます。



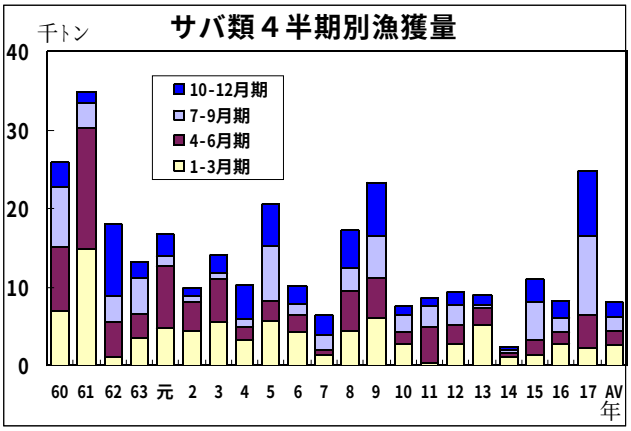


図 サバ類まき網漁獲量変化(４港計)

※平年値は過去5年（平成12～16年）の平均値，平成17年12月21日までの水揚量を使用。

［マイワシ］

1．漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は，昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後，昭和48年頃から増加の傾向が見られ，昭和63年には449万トンまで増加しました。

しかし，平成元年から三陸沖を中心に漁獲量が減少し始め，その後もマイワシの若齢魚の減少等により，全国的に漁獲量は減少を続け，平成7年には66万トン，平成10年は16万7千トンとなりました。平成11年は35万1千トンとやや増加したものの，その後減少し平成16年は5万1千トンでした。

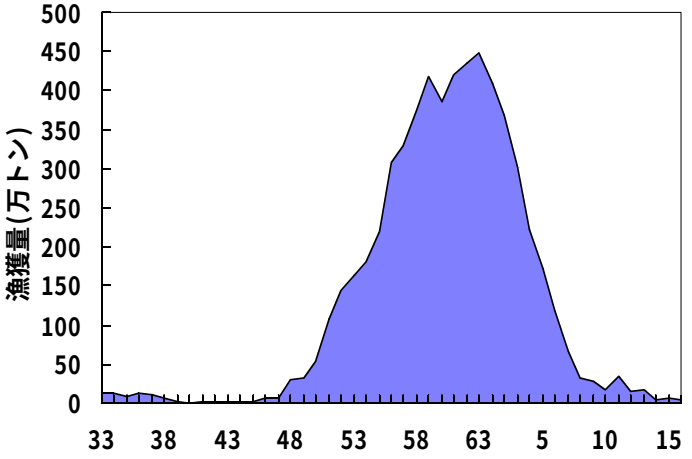


図　全国のマイワシ漁獲量の推移

2．平成17年10～12月期の漁況の経過

【４港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

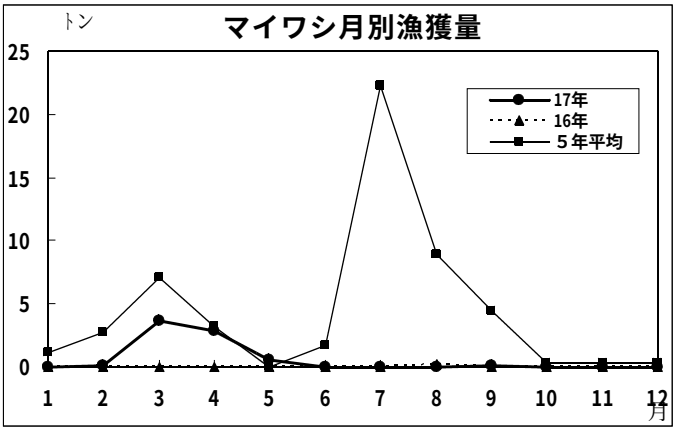
まとまった漁獲はありませんでした。

3．平成18年1～3月期の見とおし

まとまった来遊は期待できないでしょう。

（根　拠）

マイワシ資源は全国的に低水準にあり，資源回復の兆候がないことからは今期のまとまった漁獲は見込めないと思われます。



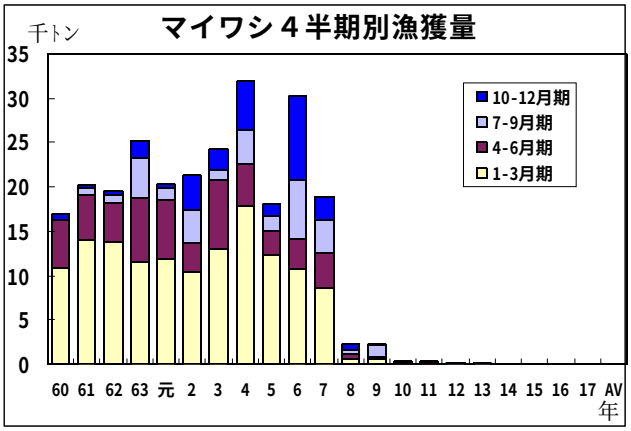


図 マイワシまき網漁獲量変化(４港計)

※平年値は過去5年（平成12～16年）の平均値，平成17年12月21日までの水揚量を使用。

[ウルメイワシ]

1．漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は，昭和30年代後半から40年代前半にかけて3万トン前後で推移していましたが，昭和46年から54年まで5万トン前後で推移しました。昭和55年以降，漁獲量は減少し昭和60年には3万トンとなりましたが，その後，増減を繰り返しながら，増加傾向を示し，平成6年に6万8千トンとなりました。近年では再び減少傾向に転じ，平成9年は5万5千トン，平成16年は3万2千トンでした。

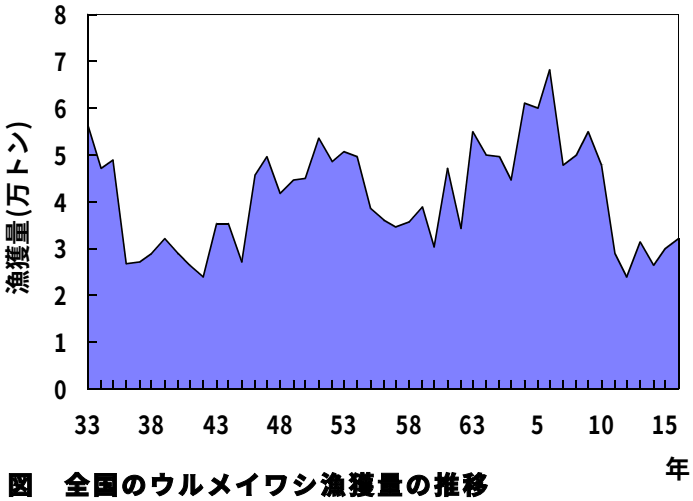


図　全国のウルメイワシ漁獲量の推移

2．平成17年10～12月期の漁況の経過

【４港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦)】

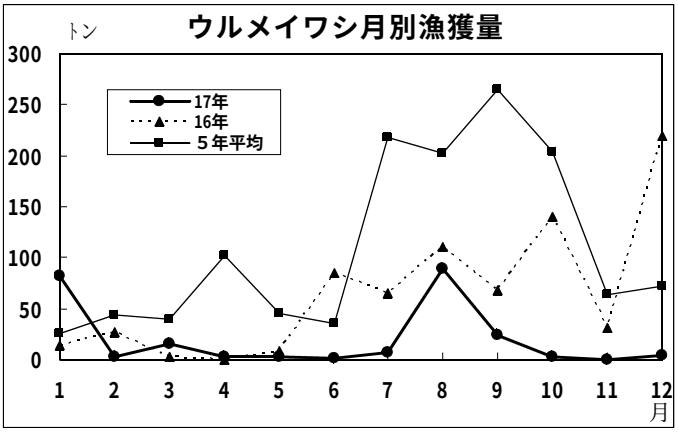
鹿児島県4港のまき網で8トン（前年比2%，平年比2%），北薩海域の棒受網で22.7トン（前年比241%，平年比250%）と，まき網では前年・平年を大きく下回り，棒受け網では前年・平年を上回りました。

3．平成18年1～3月期の見とおし

中～大羽銘柄(1歳魚・平成17年生まれ)が漁獲の主体で，平年並か下回るでしょう。

（根　拠）

今期の漁獲の主体となる1歳魚（平成17年生まれ）の水揚げが低調に推移しており，来遊水準は高くないと考えられます。



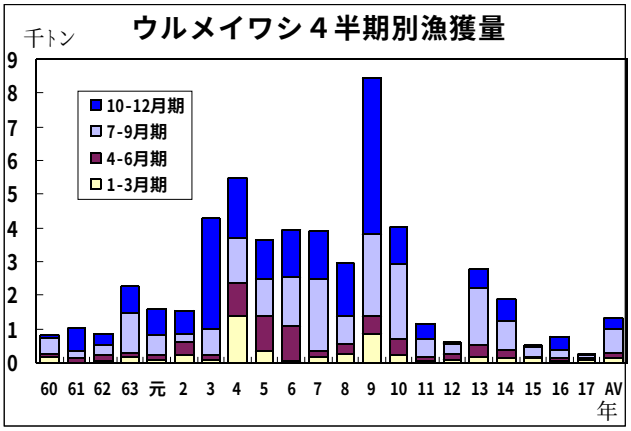


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化(４港計)

※平年値は過去5年（平成12～16年）の平均値，平成17年12月21日までの水揚量を使用。

[カタクチイワシ]

1．漁獲量の動向（農林統計）

カタクチイワシの漁獲量は，昭和48年まで30万トン台で変動していましたが，昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。その後，徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが，昭和62年には再び14万トンまで減少しました。昭和63年以降は大きく増減を繰り返し平成9年は23万3千トン，平成11年は48万トンとなりました。平成13年は，30万トンと一時的に減少したが，平成14年は再び増加し44万トン，平成16年は過去最高の49万8千トンでした。

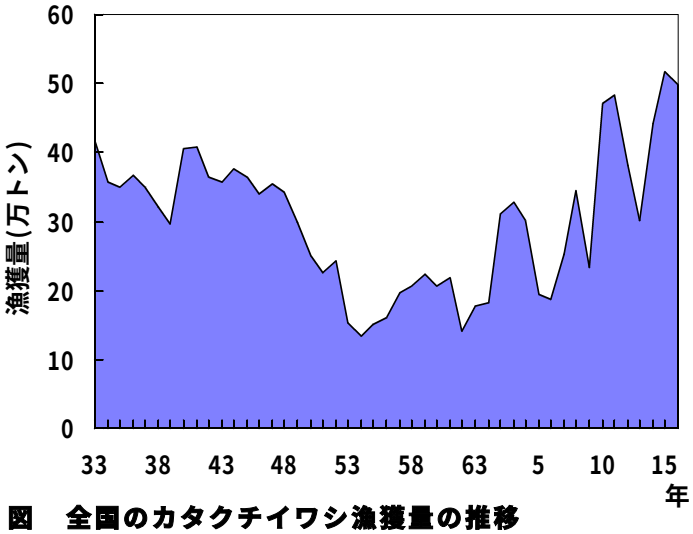


図　全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2．平成17年10～12月期の漁況の経過

【４港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）のまき網及び棒受網】

鹿児島県4港のまき網で21.9トン（前年比103%，平年比47%），北薩海域の棒受網で186.1トン（前年比383%，平年比1183%）の水揚げで，巻き網では平年を下回り，前年並み，棒受け網では前年，平年を上回りました。

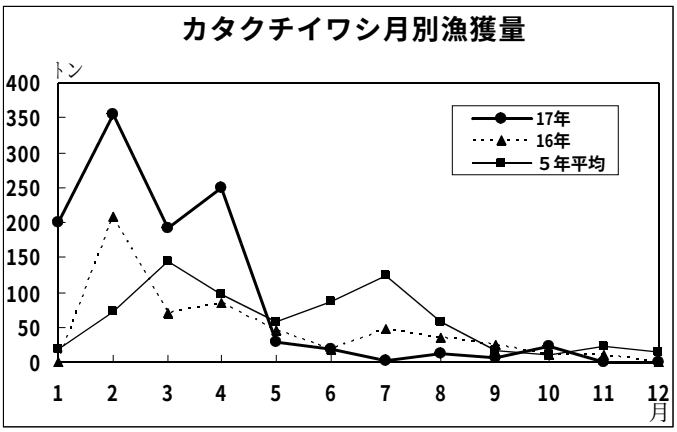
北薩海域の棒受け網では中羽銘柄（0歳魚 平成17年生まれ）を主体に好調な水揚げがありました。

3．平成18年1～3月期の見とおし

中～大羽銘柄(1歳魚・平成17年生まれ)が漁獲の主体で，平年を上回るでしょう。

（根　拠）

本県海域に来遊するカタクチイワシの資源量は増加傾向にあると考えられていること，また周辺海域のバッチ網漁業の漁模様などから，来遊水準は高いと考えられます。



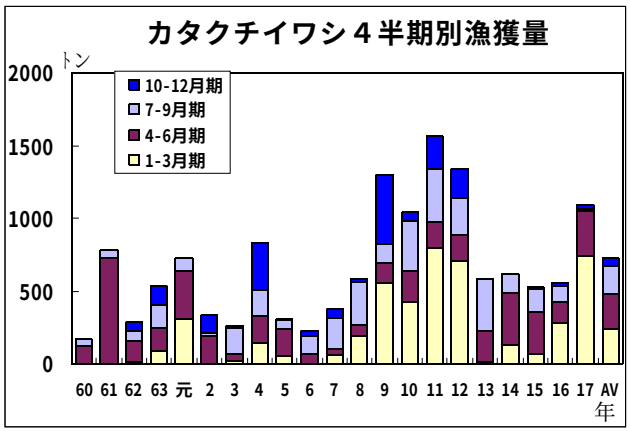


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化(４港計)

※平年値は過去5年（平成12～16年）の平均値，平成17年12月21日までの水揚量を使用。

[その他の魚種]

〈ムロアジ類（４港計)〉

1．経年変化及び平成17年10～12月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は，平成2年の21,700トンをピークに減少傾向を示し，平成12年は，昭和58年以降最低の1,819トンとなりました。平成13年以降はやや増加し，平成14年には4,418トンとなりましたが，その後はやや減少し平成16年は2,529トンとなりました。

平成17年10～12月は，主に薩南海域で漁獲があり，期全体では881トンの水揚げで，前年の75%及び平年の55%でした。

2．平成18年１～３月期の見とおし

来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

〈オアカムロ（４港計)〉

1．経年変化及び平成17年10～12月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は，平成元年の5,300トンをピークに減少し，平成6年には1,823トンとなりましたが，その後は増加傾向となり，平成10年は3,413トンでした。その後，減少傾向となり，平成16年は2,204トンとなりました。

平成17年10～12月は，主に薩南海域で漁獲があり，期全体では491トンの水揚げで前年の76%及び平年の94%でした。

2．平成18年１～３月期の見とおし

来遊量は前年・平年を上回るでしょう。

〈マルアジ（アオアジ）（４港計)〉

1．経年変化及び平成17年10～12月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は，平成2年以降低調に推移しましたが，平成7年には1,430トンに増加しましたが，再び減少し平成11年は639トンでした。平成12年以降は増加傾向を示し，平成15年は3,150トンとなりました。その後減少し，平成16年は282トンでした。

主に西薩海域で漁獲があり，期全体では23トンの水揚げで，前年の31%及び平年の3%でした。

2．平成18年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は，マルアジ中・大（２歳以上）及びマルアジ豆・小（１歳魚・平成17年生まれ）となるでしょう。

来遊量は低調であった前年並みで，平年を下回るでしょう。

（根　拠）

前期までの漁況経過からマルアジ豆・小(１歳魚）は，来遊量が低調であった前年並みに推移してます。

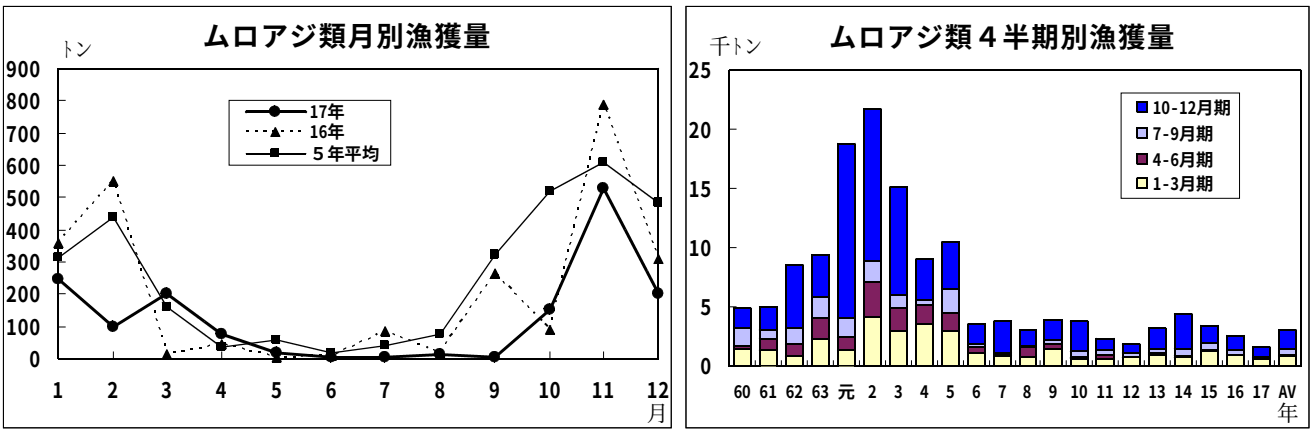


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(４港計)

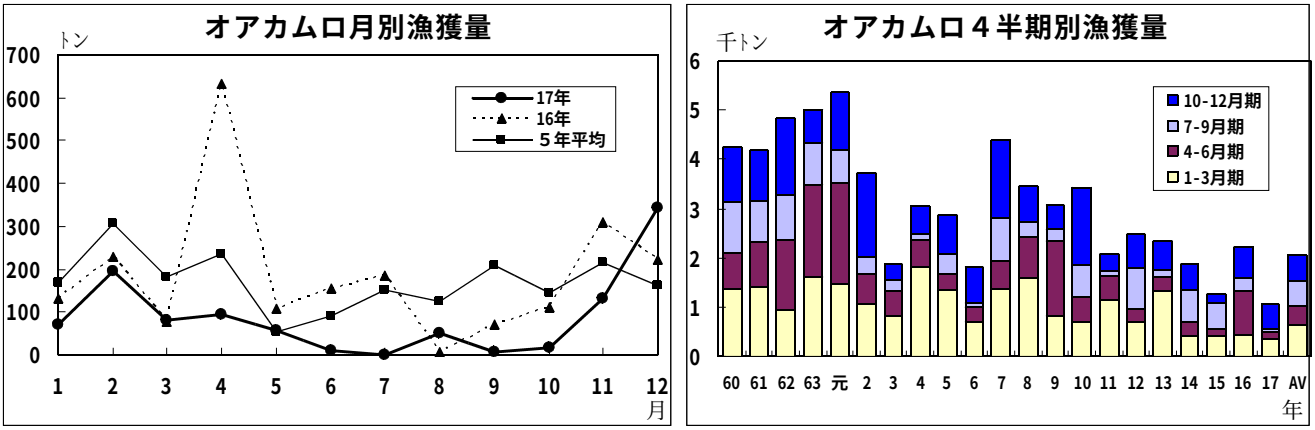


図 オアカムロまき網漁獲量変化(４港計)

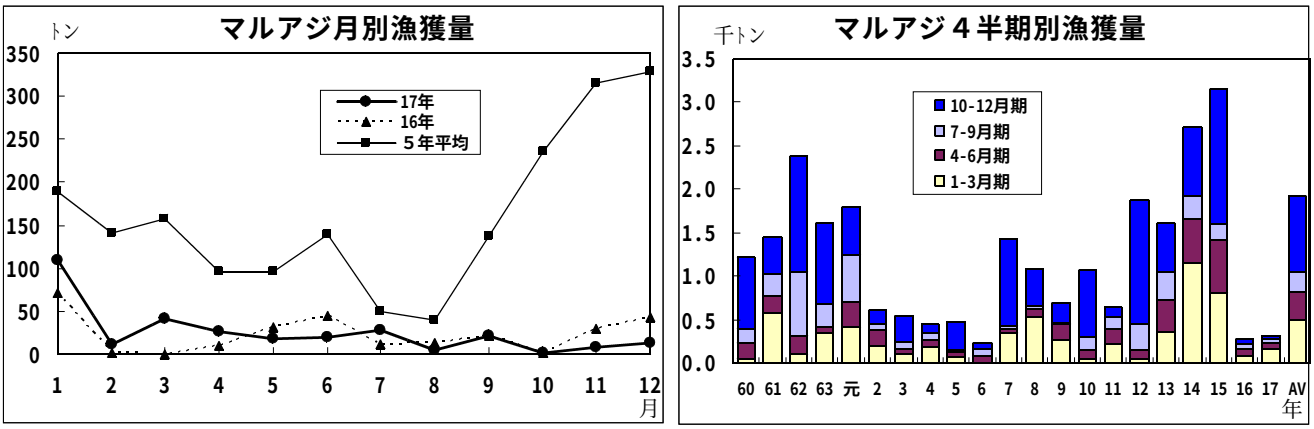
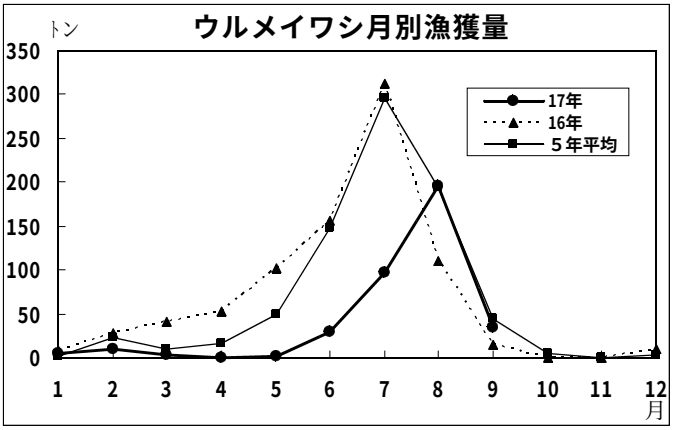


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化(４港計)

※平年値は過去5年（平成12～16年）の平均値，平成17年12月21日までの水揚量を使用。



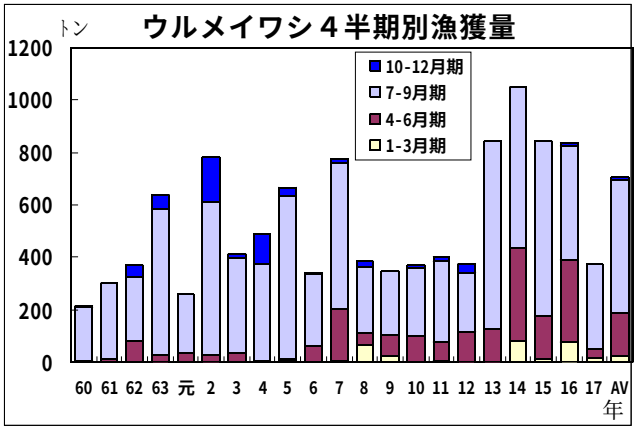
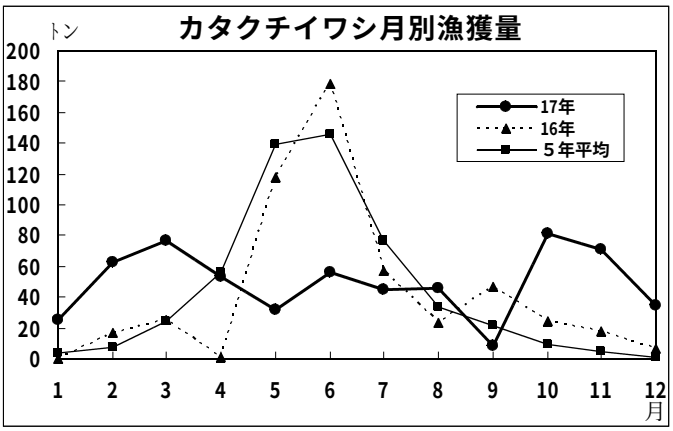


図 ウルメイワシ敷網漁獲量変化(阿久根港)



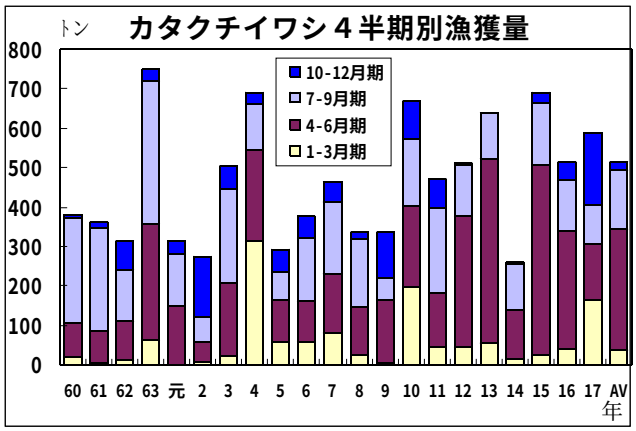
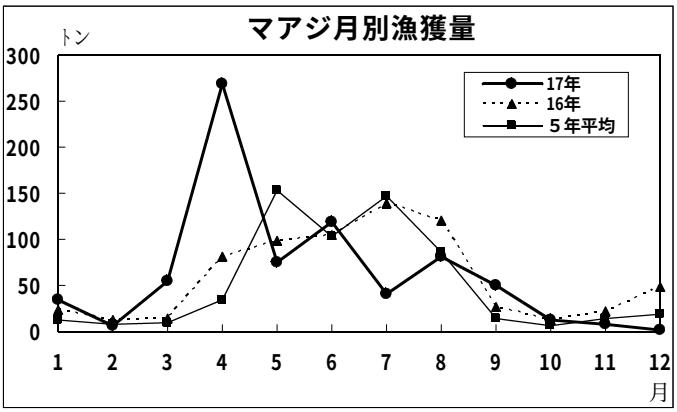


図 カタクチイワシ敷網漁獲量変化(阿久根港)



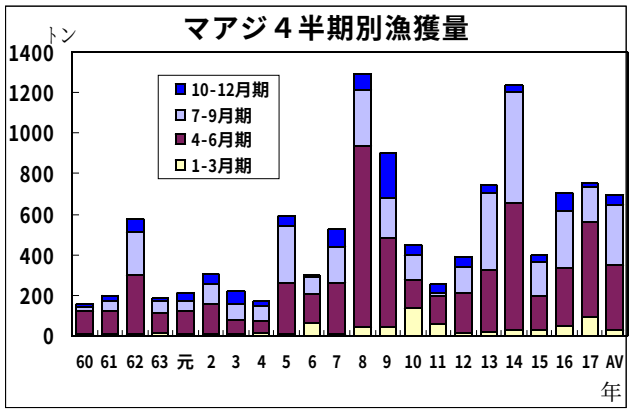


図 マアジ定置網漁獲量変化(内之浦港)

※平年値は過去5年（平成12～16年）の平均値，平成17年12月21日までの水揚量を使用。